

二〇二〇（令和二）年度 研究所報告

1. 二〇二〇（令和二）年度構成員

□東アジア学術総合研究所構成員

所長	山口 直孝
兼任所員	陽明学研究センター長 田中 正樹
同	日本漢学研究センター長 町 泉寿郎
同	文学部教授 磯 水絵
同	国際政治経済学部専任講師 今井 悠人
客員研究員	中村 聡

□東アジア学術総合研究所運営委員会構成員

所長	山口 直孝
陽明学研究センター長	田中 正樹
日本漢学研究センター長	町 泉寿郎
文学部長・大学院文学研究科長	牧角 悦子
国際政治経済学部長・大学院国際政治経済学研究科長	中山 政義
文学研究科選出委員	小山 聡子
国際政治経済学研究科選出委員	合六 強
文学部選出委員	島田 泰子
国際政治経済学部選出委員	渡辺 和則

□東アジア学術総合研究所企画・編集委員会構成員

所長	山口 直孝
兼任所員	陽明学研究センター長 田中 正樹
同	日本漢学研究センター長 町 泉寿郎
同	文学部教授 磯 水絵
同	国際政治経済学部専任講師 今井 悠人
文学研究科選出委員	小山 聡子
国際政治経済学研究科選出委員	合六 強
文学部選出委員	島田 泰子
国際政治経済学部選出委員	渡辺 和則

□陽明学研究センター構成員

センター長	田中 正樹
センター員	文学部特別招聘教授 市来津由彦
同	文学部非常勤講師 中根 公雄
研究協力員	東洋大学名誉教授 吉田 公平
同	活水女子大学名誉教授 荒木龍太郎
同	横浜国立大学教授 小幡 敏行
同	秀明大学専任講師 久米 晋平
助手	山路 裕

□日本漢学研究センター構成員

センター長	町 泉寿郎
文学部教授	

センター員（文学芸術班）	文学部教授	磯 水絵
同	文学部教授	牧角 悦子
同	文学部教授	五月女肇志
同	文学部教授	王 宝平
同	文学部教授	田中 正樹
同（歴史思想班）	文学部教授	小山 聡子
同	文学部教授	中川 桂
同	文学部教授	小方 伴子
同	文学部教授	町 泉寿郎
同（漢学史班）	文学部教授	會谷 佳光
研究協力員	公益財団法人東洋文庫	上地 宏一
同	大東文化大学准教授	清水 信子
同	文学部非常勤講師	川邊 雄大
同	日本文化大学専任講師	武田 祐樹
同	東京大学特任研究員	鈴置 拓也
助手		

2. 東アジア学術総合研究所運営委員会

第一回

日時	四月二十八日（火）	ガルーン開催
議題	① 二〇二〇（令和二）年度特別事業費について	
	② 東アジア学術総合研究所 構成員及び事業概要について	
	③ 陽明学研究センター 構成員及び事業概要について	
	④ 日本漢学研究センター 構成員及び事業概要について	
	⑤ 東アジア学術総合研究所 兼担所員（共同研究プロジェクト代表者）の学内公募について	
	⑥ 東アジア学術総合研究所 『東アジア学術総	

第二回

日時	六月一六日（火）	ガルーン開催
議題	① 東アジア学術総合研究所 兼担所員（共同研究プロジェクト研究代表者）の選考について	
	② その他	
	③ 合研究所集刊』第五一集の原稿募集について	
	④ 陽明学研究センター 『陽明学』第三二号の原稿募集について	
	⑤ 日本漢学研究センター 『日本漢文学研究』第一六号の原稿募集について	
	⑥ その他	

第三回

日時	七月三〇日（木）	ガルーン開催
議題	① 東アジア学術総合研究所 二松学舎大学学術叢書の選考について	
	② その他	

第四回

日時	一〇月一五日（木）	一三時〇五分
場所	八〇六教室	※一部オンライン開催
議題	① 東アジア学術総合研究所 二〇二〇年度事業計画の変更について	
	② 東アジア学術総合研究所 二〇二一年度特別事業費申請について	
	③ 日本漢学研究センター データベース構築に関する協力要請について（国文学研究資料館）	
	④ その他	

第五回

日時 議題

二月三日(木) ガルーン開催

- ① 東アジア学術総合研究所 二松学舎大学学術叢書の選考について
- ② その他

第六回

日時 議題

二月一八日(木) 一三時
八〇二教室 ※一部オンライン開催

- ① 東アジア学術総合研究所 陽明学研究センター長・日本漢学研究センター長の選考について
- ② 東アジア学術総合研究所 客員研究員の受入(延長・新規)について
- ③ 陽明学研究センター・日本漢学研究センター 助手の選考について
- ④ 東アジア学術総合研究所 二松学舎大学学術叢書について
- ⑤ 東アジア学術総合研究所 『東アジア学術総合研究所集刊』第五一集について
- ⑥ 日本漢学研究センター 『日本漢文学研究』第一六号について
- ⑦ 日本漢学研究センター 「雙松通訊」第二七号について
- ⑧ 東アジア学術総合研究所 日本古典籍研究国際コンソーシアムへの参加について
- ⑨ その他

第七回

日時 議題

三月一二日(金) ガルーン開催

- ① 東アジア学術総合研究所 二松学舎大学学

術叢書の選考について

- ② 東アジア学術総合研究所 研究員の選考について
- ③ 陽明学研究センター 『陽明学』第三一号について
- ④ その他

3. 陽明学研究センター運営連絡会

第一回

日時 四月一六日(木) オンライン開催

- ① 構成員および事業概要について
- ② 宋明資料輪読会について
- ③ 『陽明学』第三一号の原稿募集について
- ④ その他

第二回

日時 一〇月五日(月) オンライン開催

- ① 二〇二一年度特別事業費申請について
- ② その他

4. 日本漢学研究センター運営連絡会

第一回

日時 四月一六日(木) ガルーン開催

- ① 構成員について
- ② 事業概要について
- ③ 『日本漢文学研究』第一六号の原稿募集について
- ④ その他

第二回

日時

一〇月八日(木) ガルーン開催

議題

① 二〇二一年度特別事業費の申請について

② データベース構築に関する協力要請について
(国文学研究資料館)

③ 漢文資料の購入について

④ その他

第三回

日時

十一月九日(月) ガルーン開催

議題

① 研究成果報告書の刊行について

② 漢文資料のデジタル撮影について

③ その他

5. 『日本漢文学研究』編集委員会

第一回

日時

九月一二日(土) ガルーン開催

議題

① 査読について

② その他

6. 合意書等の締結

① 機関名

南開大学日本研究院

締結日

二〇二〇年三月二六日

※新型コロナウイルス感染拡大により調印式が延期となったため、当初の調印式開催予定日を締結日とした。

内 容 学術共同交流

② 機関名

東北師範大学東亜研究院

締結日

二〇二〇年三月二八日

※新型コロナウイルス感染拡大により調印式が延期となったため、当初の調印式開催予定日を締結日とした。

内 容 学術共同交流

③ 機関名

山東大学

締結日

二〇二〇年七月一日

内 容 「全球漢籍合璧工程」への研究協力

④ 機関名

国文学研究資料館

締結日

二〇二〇年十一月一七日

内 容 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画におけるデータベース構築

⑤ 組織名

日本古典籍研究国際コンソーシアム

参加日

二〇二一年三月一〇日

内 容 日本古典籍の保存と活用を中核とする原資料に基づく研究と教育の活性化

7. 日本漢学研究センター 公開講座の開講

※一部オンライン講義

演習講座

① 講座名

古文書解読講座

講師

文学部教授 町 泉寿郎

曜日等

火曜日 七時限

②講座名 『国語』の研究

講師 文学部教授 小方 伴子
曜日等 月曜日 三時限

③講座名 筆談文献読解講座

講師 文学部教授 王 宝平
曜日等 金曜日 六時限

④講座名 『天道溯源』解説

講師 東アジア学術総合研究所客員研究員
中村 聡
曜日等 木曜日 三時限

8. 東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト

共同研究①

研究代表者 文学部教授 磯 水絵
研究課題 興福寺の音楽―伯近真が『教訓抄』
を編纂した背景を探る―

研究期間 二年（本年度は二年目）

実施内容

本年度は、前年の各自の研究成果をまとめる年として位置付けられていた。したがって、各自研究報告を次のような論題でまとめ、七月末に思文閣出版に入稿した。以下はその概要である。

書名『興福寺に鳴り響いた音楽』

緒言

第一編興福寺の音楽文化と伯氏

第一章 建久の興福寺供養並びに東大寺供養の音

磯 水絵

楽―附、楽所預中原有安のこと―

コラム 詠まれる歌・書かれる歌、そして読まれる歌―万葉集から考える―塩沢一平

第二章 楽人伯氏の由来探索―『日本書紀』に見る高麗人渡来―櫻井利佳

第三章 伯近真の生涯 付年譜 神田邦彦

コラム 興福寺と和歌―殷富門院大輔詠三首について―五月女肇

第二編 伯近真『教訓抄』の世界
第一章 興福寺伎楽の衰退―附『天感楽外伎楽譜』翻刻解題―根本千聡

第二章 「管絃物語」「琵琶」項について―その構成と内容―落合愛董

第三章 『付法藏因縁伝』馬鳴伝にみる「頼吒哩羅」の楽について―卷第八「箏」項より―中安真理

第四章 源隆国の見た夢―『教訓抄』卷第九より―鈴木和夫

第三編 興福寺の音楽文化、その後

第一章 江戸期の興福寺薪の能小考 中川 桂

第二章 興福寺涅槃会と法隆寺聖霊会における仏前奏楽―舞樂法要と管絃講の両様式について―高橋美都

あとがき 櫻井利佳
以上

右の本を三月までに上梓するのが、本会の目下の営為である。

なお、新型コロナウイルス禍がなければ、四月の仏生会には伎楽奉納を、八月には第二回シンポ

ジウムを企画していたが、実施には至らなかった。残念である。

共同研究②

研究代表者 国際政治経済学部専任講師

今井 悠人

研究課題

現代数学の見地に立った和算の発展と業績、自然科学との関連について
— 備中地方における小野光右衛門以正（三島中洲外祖父）の業績、閩派の甲州における発展、江戸期最北端三八上北における和算
三年（本年度は一年目）

研究期間

実施内容

本共同研究プロジェクトは、備中地方における小野光右衛門以正（三島中洲外祖父）の業績、閩派の甲州における発展、江戸期最北端三八上北における和算について調査研究を行うことを目的としている。昨今の情勢によって移動が制限されているため、現地での資料調査を行うことができないという厳しい一年であった。

まず三八上北地方について述べる。江戸時代に発達した日本固有の数学である和算の大家として知られている関孝和と同時期に、八戸藩で活躍した和算家に真法恵賢という僧侶がいた。真法恵賢は幼年期に出家し、その後和算の研究のために江戸へ修行に向かい、晩年に八戸に戻り藩士に和算を教授した。八戸藩では和算の祖として恵賢流と呼ばれる和算の流派を作り、多くの弟子を育てたと伝えられている。その活動の記録は八戸藩の藩日記などの古文書や、石像などに複数残されて

いる。そのうち、もともと詳細に残されている記録が真法恵賢の弟子たちによる和算の問題集である。今回その問題集である「真法弟算記」の問題と解答を精査し、その解答者である弟子たちの詳細を藩日記で調べ上げ、その成果をまとめて論文として投稿した（土屋・今井、「真法恵賢と真法弟算記について」、『八戸工業大学紀要』）。また、江戸期における遊歴和算家である山口和の八戸における活動の記録を調べ、その動向と関係者を明らかにした。これをまとめて論文として投稿した（今井・土屋、「遊歴和算家山口和と八戸」、『八戸工業大学紀要』）。山口和が出会った藩士には、真法恵賢の弟子の関係者が含まれていることから、当時最先端の数学の知識を有していた山口和と、八戸藩の和算の情報交換が行われた可能性がある。加えて藩士でない人物が登場するため公文書には記載されていない内容が多く、それをまとめたことには価値があると考えられる。次年度は引き続き「真法弟算記」の解答を精査するとともに、同じく真法恵賢の弟子たちが神社仏閣に奉納されている算額をまとめた「諸国神社仏閣掛所算術」についても調査研究を行う。

次に、甲州地方について述べる。勤王家として知られる山縣大貳が和算家としても業績があるという点に着目し、資料収集と調査を行った。山縣の主な資料は山梨県にある山縣神社及び山梨県立博物館甲州文庫に所蔵されている。山縣神社に許可をいただき所蔵されている資料の一部について閲覧、撮影を行うことができた。しかし残念ながら所蔵資料の全体が把握できない。山縣神社建立百

年となる令和三年に向けて、目録の作成が待たれる。また、今回の資料調査により新資料も発見できたため、次年度に資料紹介及び研究論文として発表したい。今年度は山縣の著した和算書である「牙籌譜」について山縣神社蔵本を底本とし、現存写本六種と校合を行い、解題と翻印を行った（今井、「柳莊山縣昌貞著「牙籌譜」の解題と翻印」、『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』）。この翻印を基に、山縣の手法の独自性とその後の和算書に与えた影響等について研究を行う。備中地方における調査であるが、岡山県への出張が行えなかったため十分な調査が行えていない。近郊で可能な調査として、学士院所蔵小野以正著作について閲覧・撮影を行なった。次年度は岡山県に現存する小野以正関連の資料を調査、撮影するとともに、小野の数学的業績についてまとめたい。

9. 学術叢書の刊行助成

①書名等 『中国古典学の再構築』汲古書院

二〇二一年二月一六日発行

著作権代表者 文学部教授 田中 正樹

②書名等 『興福寺に鳴り響いた音楽―教訓抄の世界―』思文閣出版

二〇二一年三月一九日発行

著作権代表者 文学部教授 磯 水絵

③書名等 『日中文化のトランスナショナルコミュニ

ニケーション―歴史・社会・コンテンツ』
ナカニシヤ出版
二〇二一年三月三一日
文学部教授 江藤 茂博